

取組内容

連絡会における取組内容

《取組内容》

① TOKYO2020大会後も継続中の取組や新規取組の事例収集及び情報共有

<取組メニュー案>

- ・ 2020大会時に実施して表彰等をされた継続中の取組を対象
- ・ 加えて、物流関係団体から新たに紹介された企業の取組を適宜追加
- ・ 貨物車走行距離や台数削減、積載率向上等の視点で、各取組を効果検証

② 物流効率化の促進に向けた効果的なP R内容と方法の確認

<取組メニュー案>

- ・ 優良な取組事例の紹介
- ・ 構成関係団体の機関紙等を活用したPRの実施
- ・ 優良な取組を連絡会で選定し、事業者の取組を都のHPで公表

③ 国の動きや物流DX等、さらなる効率化に繋がる情報共有

<取組メニュー案>

- ・ 共同配送等の取組促進に繋がる物流DXの紹介
- ・ 優良取組事例の効果等の紹介や事業者による講演 など

① 大会後も継続中の取組や新規取組の事例収集及び情報共有

《物流TDM実行協議会が表彰した団体一覧（令和3年7月）》

企業・団体名	業種	取組概要	継続中の取組の有無
株式会社 アップルクオリティ ①	運送業	・旅客用高速バスを活用した貨客混載による地域特産物の輸送	有
株式会社 ゲイト	飲食業・漁業・ 水産加工業	・物流拠点の整備及び店舗への他品目をまとめた一括自社配送	無
新宿EAST魅力あふれる 街創り有志懇談会 ②	—	・地域ルールによるエリア内自動車交通量の低減 ・大規模開発に合わせたエリア別共同荷捌き場の整備の検討等	有
株式会社 ミノダ ③	製造業・ メーカー	・注文システムのオンライン化 ・顧客と加工工業を直接つなげる物流システムの転換による配送台数の削減	有
株式会社 NTSロジ ④	運送業	・共同配送による積載率改善	有

表彰団体の取組事例(継続中)

① 株式会社アップクオリティ

➤ 企業・団体名

株式会社アップクオリティ (運送業)

➤ 取組内容

“高速バスを利用した「朝どれ・夕どれ野菜」の直送”
東京への地域特産品輸送について、既存の交通手段を活用し、新たなトラック輸送を抑制

➤ 効果

既存交通手段の活用 (モーダルシフト) による交通混雑緩和
CO₂排出量の削減、地域特産品の出荷を通じた経済の活性化等

産地

- 農業協同組合 (JA)
生産者/農業法人/道の駅など
- 農場や牧場
- 食品事業者
菓子/惣菜/食肉など
- 漁港/水産事業

貨客混載物流

高速バス25社と契約中・8社と協議中

バスの荷台に積み込み発送
専用IoT BOXで品質を管理
専用アプリで受発注管理

荷下ろし(都内)

東京都内22箇所での荷受け

代表的な荷下ろし場所

- UPQ バスタ新宿**
各地から1日約1000以上の上り客が地上3階フロアに到着する。UPQではバスタ新宿の管轄である国土交通省の東京国道事務所と協力し、2018年より継続的に高速バスからの受取の実証実験を行っている。
- 三菱地所**
新立地(大塚駅1-1-1)にある。三菱地所本社ビル。バス事業者は乗客を降ろした後に、本ビルと大塚駅センタービルの間の貫通通路にある荷受場へ戻話し商品を納品する。
- 高速バス各社の事業所**
神戶バス・小田急・富士急・東上・WILLERなど、高速バス各社の事業所にて、貨物混載物流で運んだ商品を受け下ろしすることが可能。

UPQ
The Quality Bus

お店や売り場までのラストワンマイルはアップクオリティが配達

② 新宿EAST魅力あふれる街創り有志懇談会

➤ 企業・団体名

新宿EAST魅力あふれる街創り有志懇談会

➤ 取組内容

地域ルールによるエリア内自動車交通量の低減
(荷捌き可能時間帯のルール化と地域への周知等)

大規模開発に合わせたエリア別共同荷捌き場の整備

➤ 効果

各店舗の荷捌き状況や荷捌き方法、当事者の意見等が正しく反映された対策の策定、実施が可能

表彰団体の取組事例(継続中)

③ 株式会社ミノダ

➤ 企業・団体名

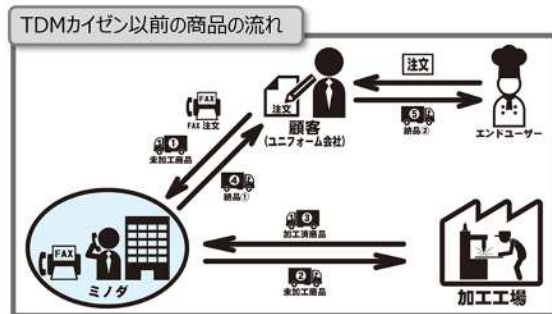
株式会社ミノダ (製造業・メーカー)

➤ 取組内容

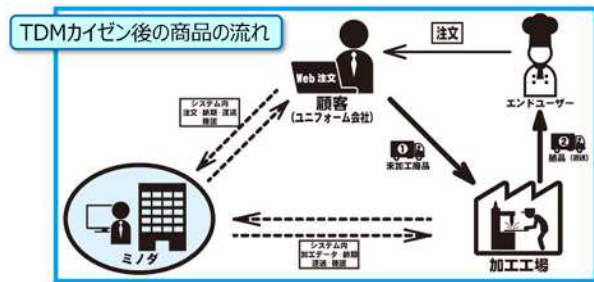
“システム開発と導入による顧客と加工工場との直配化”
システムによる注文の集約と配送管理を行うことで、顧客と加工工場との直配を実現

➤ 効果

顧客と商品の直配化による配送台数の削減
1注文あたり5回配送⇒1注文あたり2回配送



1回の注文で、商品が5回発送される



1回の注文で、商品が2回の発送に激減

④ 株式会社NTSロジ

➤ 企業・団体名

株式会社NTSロジ (運送業)

➤ 取組内容

“大田市場から多摩地域への店舗配送を共同化”
個々で配送している仲卸業者様の荷物を集めて、共同配送

<取組前>



<取組後>



➤ 効果

(例)大田市場から仲卸業者様が3台別々に走行すると約**290km**

- ・立川市まで約50km (往復約100km)、八王子市まで約55km(往復約110km)、府中市まで約40km(往復約80km)
合計約290km

(例)これを共同配送すると約**120km**

- ・府中⇒立川⇒八王子 約40km + 約10km + 約15km = 約65 k m
帰り八王子⇒大田市場 約55km 合計約120km

② 物流効率化の促進に向けたPR方法の確認

《PR方法（案）》

<PRのツール>

- ・東京都HP
- ・東京都スムーズビズのメルマガ
- ・関係団体のHP
- ・関係団体の機関誌 等



<PRの内容>

- ・優良な取組事例の紹介
- ・物流DXの導入事例の紹介 等

<東京都HP掲載例>

③ 国の動きや物流DX等さらなる効率化に繋がる情報の共有

- ▶ 総合物流施策大綱（2021～2025年度）では、デジタル化の推進を通じて、オペレーションの改善や働き方改革を実現することを目指している。
- ▶ 物流DX導入促進のため、今回の連絡会以降に、国土交通省の事例集等を参考にして、効果も含めた導入事例の紹介等を行っていく。
- ▶ 現在国で開かれている「持続可能な物流の実現に向けた検討会（国交省・農水省・経産省）」において、今後の物流施策を具体的に進めていくため、第5回検討会にて中間とりまとめ案が示されたところであり、最終のとりまとめは、R5年夏頃に予定されている。

③ 国の動きや物流DX等さらなる効率化に繋がる情報の共有



19

事例 19

AIにより異業種の荷主をマッチングし、共同輸送の機会を創出

配送
デジタル化
AIマッチング

日本パレットレンタル [サービス提供者]

多数の企業の輸送経路などをデータベース化し、膨大な物流データからAIにより業界を跨ぐ荷主企業同士をマッチング、共同輸送を可能にする。メーカー等から荷物を定期便として請け負う運送会社も荷主として利用可能。実車率や積載率の向上、CO₂排出量削減を図り、飛躍的な物流の効率化が実現できる。

① 背景

無駄な輸送便を減らしたい、新しい輸送網を形成したい

物流費の高騰やドライバー不足、脱炭素への対応や40%未満にとどまるトラックの積載効率の改善等、企業の輸送に関する様々な課題がある。

② 導入技術

共同輸送AIマッチングサービス「TranOpt」

- 群馬大学および明治大学との産学共同研究によるAIを導入。ルートを登録するとAIが物流ビッグデータをもとにマッチング。詳細なマッチング条件や需要、季節変動を考慮したマッチングで安心・効率的な共同輸送が可能になる。
- 帰り便や混載便をマッチングすることで実車率、積載率が上昇。コストの削減、人手不足の解消など、物流の効率化を実現する。
- マッチング前の質問事項でマッチング後の食い違いを最小限にする。チャット機能を搭載し、マッチング後のスケジュール調整もサービス内で完結する。

【TranOptシステムの概要】

利用客の期待

- 新しい輸送ルートでの輸送や、混載できるパートナーを募集したい、など

コスト削減、効率化

- 既存ルートと混載の効率化を実現したい、など

脱炭素

- CO₂排出量を減らしたい、カーボンフットプリントを削減したい、など

実車率を上げる

帰り便も探す

積載率を上げる

混載便も探す

③ 効果

- 2021年8月までに実施した無償モニタ利用期間中、TranOptのAIがシステム上でマッチングした輸送経路の平均実車率は93%で、利用者から期待の声が上がった。
- 会員企業からは「AIのマッチング結果が多い」、「異業種とコンタクトを取るのがよい」、「操作や検索結果がわかりやすい」、といった好評価の声が上がっている。